

## 見てはいけない手紙

道徳的なものの見方や考え方は、さまざまな道徳的価値観の間で、何が正しいのか、自分はどうすべきかを迷い、考える中で、段階的に発達すると言われている。こうした複数の結論の間で悩み葛藤することを「モラル・ジレンマ」という。

日常的な場面でも、複数の行動の選択肢があり、どちらも正しく思われ、どうすべきか判断や選択に悩むことがある。ここでは、身近な部活動の場面を通して、生徒がもっている価値観に揺さぶりをかけ、自明のこととしていた価値観の問い直しに迫りたい。そして、道徳的であることの難しさに気付かせたい。



## 「見てはいけない手紙」

A子はバレー部のキャプテンとして、チームをまとめながら頑張ってきた。しかし最近、怪我をしてからは、本来の力が発揮できずに悩んでいた。

そんなある日、部室に1通の手紙が落ちていたので、何気なく開いて読んでみた。

「B子へ。もうすぐ大会だね。絶対に勝ってみんなで県大会に行こうね。ところで、A子なんだけど、怪我してから下手になってると思わない？ この前の試合もA子のせいで負けたしね。A子をメンバーから外すために、メンバー決めの投票ではみんなでA子に入れないようにしない？ これは先生やA子には絶対内緒だよ。A子が出なければ、きっと勝てるよ。返事待ってるね。C子より。」

A子は、何も見なかったふりをして、手紙を落ちていた場所にそっと戻した。次の日、B子は、同じ手紙を手にとって読んだ。

### ワークシート

Q1 あなたがA子だったらどうしますか。

(1) この手紙のことを誰かに伝えますか。

(2) それはなぜですか。

Q2 あなたがB子だったらどうしますか。

(1) この手紙のことを誰かに伝えますか。

(2) それはなぜですか。

(3) もしC子への返事を書くとしたら、どのような手紙を書きますか。

## 1 対象と実施する時期

全学年

## 2 展開例

	学習活動	指導上の留意点	参考
導入	「見てはいけない手紙」のストーリーを読む。	○ワークシートを配付して、身近なモラル・ジレンマに関するストーリーを読ませる。 ○隣の席の生徒同士で互いに感想を述べさせる。	〈ねらいの説明〉 資料
展開	1 A子の場合について考える。	○A子の立場に立った場合どうするか、また、その理由をまとめさせる。	ワークシートQ1
	2 B子の場合について考える。	○B子の立場に立った場合どうするか、また、その理由をまとめさせる。	ワークシートQ2
	3 B子の返事について考える。	○B子の立場に立った場合どのような返事を書くのかをまとめさせる。	
終結	ペアでワークシートを交換し、感想を述べ合う。	○隣の席の生徒とワークシートを交換させて話し合わせる。	〈まとめ〉

## 3 留意事項

- (1) ストーリーは、高校生に身近で、モラル・ジレンマに適したものとする。
- (2) どの結論が正しいかではなく、なぜそう考えたのかを深く考えさせるように工夫する。

### 〈ねらいの説明例〉

私たちの生活では、どうすべきか悩む場面がたくさんあります。とくに複数の結論があり、どれも正しく思われるようなときにはなかなか決断ができません。こうした複数の結論で悩む葛藤のことを「モラル・ジレンマ」といいます。

今日は、私たちの身近に起きそうなストーリーを読んで、自分ならどう対応するのかを考え、悩みながらまとめてもらいたいと思います。後半では、手紙への返事を実際に書いて、皆さんの考えをまとめてもらいます。

### 〈まとめの例〉

今日は、皆さんの身近に起こりそうなストーリーをもとに考えてもらいました。皆さんの心の中はきつともやもやしたものが残っているのではないのでしょうか。私たちの生活の中には、どちらが正しいのかわからなくても、決断や選択を迫られることが数多くあります。時には、失敗や後悔をすることがあるかもしれません。道徳的であることは時としてとても難しいことです。しかし、この難しさから逃げずに生きていきたいと思います。

## あと一步の勇氣

高校時代は、他者とのさまざまな関わりの中から、自分の生き方や人生を考えたり、自ら善悪を判断したりするようになる時期である。しかし、分かっているにもかかわらず行動に移せない、そういうもどかしさにとらわれたことは誰にでもあるだろう。

自らの判断、良心のもとに、勇氣をもって一步前へ進むことの大切さに気付かせることを目標とする。



## 「こちらこそありがとう」

「どうぞ、座ってください。」見ず知らずの人に対して、自分から急に声をかけることはとても勇気がいります。自分がその人を見て席を必要としているとわかっていても、いざ声をかける時には「本当に座りたいのかな?」「ありがた迷惑じゃないかな?」とってしまうものです。

私は部活の遠征で電車を利用したときに、心に残る体験をしました。私が席に座っていると、駅で七十代くらいのおじいさんが奥さんの手を引いて電車に乗ってきました。おじいさんが車両を見渡して空いている席を探していましたが、どこも人が座っていて空席はありませんでした。おじいさんとおばあさんがゆっくり私の座っている近くまで歩いてきたので、私は席を立って「どうぞ、座ってください。」とおじいさんに言いました。おじいさんは笑顔で「ありがとう。お言葉に甘えて。」と言っておばあさんをゆっくり席に座らせました。私の両隣の人には動かなかったので、おばあさんしか座れませんでした。私は二人並んで座れたらよかったのにと思いました。

しばらくして駅に着くと、ドアの近くにいた私に向かって、さっきのおばあさんが「お姉ちゃんありがとね」と言って笑ってくれました。おばあさんを電車から降ろしてから、おじいさんが「妻に親切にしてください。ありがとうございます。感謝します。」と言って深くおじぎをしました。私はおじいさんの姿を見て奥さんのことをとても大事にしているんだろうと思いました。何気なく席を譲っただけなのに、こんなに感謝されるんだとびっくりしました。

電車が走り出して、おじいさんたちの後ろ姿を見ていたら私はとても嬉しくなりました。奥さんを大切にしているおじいさんと、おじいさんを頼っているおばあさんを見て心が温かくなりました。おじいさんとおばあさんにたくさんのお礼をもらって、私もありがとうを言いたくなりました。

電車にはたくさんの方が乗っています。自分だけがよければいいと思ってしまうとトラブルが起きやすいので、まず他者のことを考えるべきだと思います。毎日電車に乗る人は、自分勝手に振る舞えば、毎日誰かに迷惑をかけることになります。しかし、少し周りを見る余裕をもてば、小さくても毎日よいことができるでしょう。

自分の意識ひとつで行動は簡単に変わります。みんながそれぞれ出来ることから始めていけば、電車は思いやりで満ちあふれた場所になるでしょう。何をしてもよいかわからない人は、まず勇気を出して席を譲ってみることをおすすめします。

(平成 23 年度尾西地区地域協働生徒指導推進事業優秀作文  
県立杏和高等学校 柴田侑佳)

## 「震災、その後」

平成7年1月17日午前5時46分、淡路島北部沖の明石海峡を震源として、マグニチュード7.3の大地震が発生した。いわゆる阪神・淡路大震災である。私はこのとき、まだ母親のお腹の中にいた。住んでいた家は全壊したが、家族は全員外出していたため、幸いなことに無事であった。しかし、一瞬のうちに住むところをなくし、避難所生活を余儀なくされた。ほどなく両親は、一時的に愛知県の親戚のところへ身を寄せることを決めたそうである。

その後、私は無事にこの世に生を受け、1歳の頃には兵庫県に帰ることができた。今は楽しく高校生活を送っている。これも、震災後に全国から寄せられた多くの救援・支援のおかげだと思っている。愛知県で過ごした約1年間は、周囲の方にとっても親切にいただいたと、母は口癖のようにいっている。私も母の話を聞いて、思いやりや温かい支援に支えられて避難生活を無事に送ることができたという感謝の気持ちがいつも心の中にあった。

あれから16年たった平成23年3月11日、東北地方太平洋沖で大きな地震が発生した。東日本大震災である。震災後まもなく、一人の女の子が転校してきた。被災地から親戚を頼ってこちらに来たということだが、いつまでこの学校にいられるかわからないと言っていた。

その女の子は登下校や放課中、お昼のお弁当を食べるときも、いつも一人で行動していた。クラスメイトは話しかけようとしていたが、なかなか話しかけるきっかけがつかめずにいた。私も話しかけようと思いながら話しかけることができないまま、2週間がたってしまった。

私は母に相談してみた。母は私に、愛知県での避難生活の話をし始めた。その話を聞いているうちに、自分が何をしたいのか、何をしようとしていたのか鮮明になってきた。私は、明日の朝が待ち遠しい気持ちでいっぱいだった。

翌朝、私は軽い足取りで学校へ向かった。しかし、教室には彼女の姿はなかった。いつもはすでに学校に来ている時間なのに・・・

朝のS Tが始まり、担任からその女の子は、別の親戚を頼って引っ越しをした、と聞かされた。

◇ あと一步の勇氣 ワークシート

組 番 氏名 ( )

「こちらこそありがとう」を読んで

〈ワーク1〉 この作文と似たような経験はありますか。その時自分がとった行動や気持ちを書いてみましょう。

「震災、その後」を読んで

〈ワーク2〉 「私」は、女の子に話しかける勇氣がありませんでしたが、あなたならどうしていたでしょうか。

〈ワーク3〉 「私」が母親に相談して気付いたことは何だったのでしょうか。また、女の子が引っ越したことを聞いて、「私」はどのように思ったのでしょうか。

〈ワーク4〉 友達の経験をメモしましょう。また、2つの話を読んで感じたことや気付いたことを話し合ってみましょう。

## 1 対象と実施する時期

全学年・1学期

## 2 展開例

	学習活動	指導上の留意点	参考
導入	本時の学習内容について知る。	○あらかじめ4～6人のグループに分けておき、進行係を決めさせる。	〈ねらいの説明〉 役割分担
展開	1 「こちらこそありがとう」を読む。 2 「震災、その後」を読む。 3 女の子に声をかけるかどうかや声のかけ方を考える。 4 母親に相談して気付いたこと、女の子が引っ越したことを聞いたときの「私」の心情について考える。 5 似たような経験や行動、気持ちなどをグループ内で発表し、友達の経験も記録する。 6 二つの話や友達の経験から感じたことを記入する。	○感じたことを素直に書かせる。  ○自己の考えと比較しながら、グループ内で自由に発表させる。 ○個別に発表させてもよい。	ワーク1  ワーク2  ワーク3  ワーク4
	終結	本時のまとめを聞く。	

## 3 留意事項

- (1) グループ内での話し合いの時間を十分に確保する。
- (2) ワークシートの記入についても、様子をみながら時間確保に心がける。

### 〈ねらいの説明例〉

皆さんは小さいときから「困っている人には親切にしましょう」と教わっていると思います。しかし、実際に困っている人に会ったとき、躊躇せず親切に行動に移せるでしょうか。行動に移せないとしても、それは皆さんに優しさが無いのではなく、ほんの少しの勇気が足りないだけだと思います。困っている人に対して、どのように接したらいいのか分からず、迷うこともあるかもしれません。でも、「これは余計なおせっかいかもしれない。」と考えて、結局何もしなかったことが、後悔につながることもあると思います。こんなときどうしたらいいのかを一緒に考えてみましょう。

### 〈まとめの例〉

皆さんが電車に乗っていて、お年寄りに席を譲ることは、簡単なようで難しいですね。また、クラスメイトに声をかけるという当たり前のような簡単な行動であっても、それを実行することが難しいこともあります。でも、それを素直に行動に移すことができれば、こんなすばらしいことはありません。それは、お互いの心にずっと残ります。親切にしたときやされたときに、温かい何かが込みあげる不思議な気持ち、皆さんにも経験があると思います。おせっかいと思われてもいいと思いませんか。きっと「あと一步の勇気」が皆さんを幸せにするとおもいます。



## 沈みゆくボート

最近の若者は「パック詰めされた卵」にたとえることができる。群れたがるが、互いに傷つき合うことを恐れて深くは交わろうとしない。短い携帯メールは頻繁に交わすが、重いテーマについてじっくり考え、意見を交換する経験は少ないのではないだろうか。

そこで、具体的な場面設定に基づく正解のない問題に取り組ませ、意見交換を通して、他者の存在や多様な価値観、考え方に気付かせると同時に、自らの考えを深化させる。



### 討論「沈みゆくボート」

嵐で船が難破し、7人が救命ボートに乗り込みました。しかし、このボートは6人乗りのため、しだいに沈み始めています。このままでは7人全員が命を失ってしまいます。

7人とは、身寄りのない老婦人、5歳の幼児、屈強なスポーツマン、余命1年と医師から宣告されている病人、大家族を養う父親、将来の国を背負うと目されている若手政治家、これまでに多くの人を不幸に陥れてきた詐欺師です。

ボートは刻一刻と沈みつつあります。あなたはどうすればよいと思いますか。

#### ワークシート1

【対処法】
【その対処法を支持する理由】

#### ワークシート2

これまでに発表された各対処法に関して、意見を書いてください。

対処法	左記対処法に対する意見、質問

#### 振り返りシート

あなたの最終結論は何でしたか。
この活動を通して、あなたは何を感じましたか。

## 討論「沈みゆくボート」参考資料

(「現代文明論講義—ニヒリズムをめぐる京大生との対話」(佐伯啓思著 ちくま新書)より)

### 〈「沈みゆくボート」について予想される意見〉

#### ① 自由に争い合う (リバタリアニズム)

※ 平等な自由に基づく。その結果は全面的に受け入れなければならない。

(例) 経済の領域で見られる市場原理主義

富の集中と貧困層の拡大 参考図書「ルポ 貧困大国アメリカ」堤未果 (岩波新書)

#### ② 全員死ぬしかない (リベラリズム) → 生命尊重主義

※ 全員の生命・自由を保障すれば誰が死ぬのかは決定できないので、救命ボートに乗れる 6 人を選ぶことができない。つまり、全員乗り込んでボートが沈み、全員が死ぬことになる。

※ 生命は基本的人権で、誰も人の命を奪うことはできない。

しかし、身の回りのことを考えると、生命は軽視される傾向にある。理由のよく分からない殺し、いじめ、自殺。生命尊重主義はもはや共有されなくなっていないか。

#### ③ 特定の誰かが死ねばいい (功利主義) → 個人の利益よりも社会全体の利益を優先する。

(例) 一番問題のある人を犠牲にする (犯罪者) : 犯罪者は社会にとって有益ではない。

老人 : 社会ではあまり役に立たないので、犠牲になっても仕方ない。

※ アメリカ合衆国では、ベトナム戦争の時、黒人や最下層の人たちが激戦地に送られた。結局、弱者が犠牲になる可能性が出てくる。

※ 世間から嫌われている者を殺すことは許されるかもしれない。死刑制度にもその一端を垣間見ることが出来る。 参考図書「罪と罰」ドストエフスキー

※ 犠牲の対象になった人の知り合いが、無事に戻った人を復讐しようとするかもしれない。

(例) チェチェンのブラック・ウィドー (ロシア人に自分の夫を殺された未亡人や、近親者を殺された女性たちがテロリストになり、ロシア人に報復する。)

#### ④ くじ引きをする (ポストモダニズム)

※ すべては偶然で決まる。人生に必然的な意味はなく、全て偶然で動く。

※ ただ偶然で理由もなく死んだのではやりきれない。生き残る方も別の者を死なせたことに納得できる理由がほしい。どこかに深い罪の意識をもつことになる。

#### ⑤ 自ら犠牲になる

古代ギリシア・ローマ時代の英雄は、他の者を救うために自発的に死を選択した。英雄として名を残し、名誉を得る。個人の死よりもポリスの永続性を重視した。しかしながら、この考え方を現代にそのまま持ち込むことは難しい。

この場合、一見功利主義と同じように見えるが、一番立派な人が自ら死ぬのに対し、功利主義では、社会に対して最も反社会的行為を行いそうな人を社会からまず排除する。

## 1 対象と実施する時期

第2学年～第3学年

## 2 展開例

	学習活動	指導上の留意点	参考
導入	<p>1 「沈みゆくボート」の説明を聞き、ねらいを理解する。</p> <p>2 問題についての質疑応答をする。</p>	<p>○救命ボートに乗れない人は必ず死ぬことを前提とすることを伝える。</p> <p>○前提や条件の変更は一切しないことを伝える。</p>	〈ねらいの説明〉
展開	<p>1 各自が問題への対処法とその選択理由をワークシートに書く。</p> <p>2 対処法の発表を行う。 司会：生徒（または教員）</p> <p>3 対処法についてグループで討論する。 (グループワーク1)</p> <p>4 話し合い結果を発表する。(グループで話し合った対処法の発表、発表した対処法等に対する質疑応答)</p> <p>5 現実社会での類似例とその問題点を提示する。 (グループワーク2)</p>	<p>○正解はないので自分なりの考えを書くよう生徒に伝える。</p> <p>○対処法、理由を板書させる。</p> <p>○できるだけ具体的な理由を添えさせる。</p> <p>○できる限り異なる意見の生徒でグループをつくらせる。1グループ4名とする。</p> <p>○各対処法に基づく具体例や隠れた事実について、教員が生徒の発言を促しながら補足する。</p> <p>○グループの討論で新たに気付いた点や意見を発表させる。</p> <p>○グループの代表者に発表させる。</p> <p>○グループで一つの対処法に決める必要はなく、メンバー全員が別々の意見でもよいことを伝える。</p> <p>○現実社会での類似例を紹介するが、あくまでも「沈みゆくボート」の問題解決を考えさせる。</p>	<p>ワークシート1</p> <p>ワークシート2</p> <p>参考資料</p> <p>参考資料</p>
終結	最終意見を確認し、活動の感想を記入する。	○振り返りシートに記入させる。	振り返りシート 〈まとめ〉

## 3 留意事項

- (1) この問題には正解があるわけではないので、自分の考えを積極的に発言することが大切であると生徒に伝える。
- (2) ワークシート2では、各対処法がもつさまざまな側面について、現実社会で起きていることも考慮するように伝える。
- (3) 自分の考えた対処法が他の生徒の対処法と異なっても不安がらず、積極的に意見交換

をするよう伝える。グループワークでは、人の意見をよく聞き、自分が選んだ対処法がもつ別の側面や別の対処法の高さや問題点についても考えさせる。

- (4) 各対処法の考え方から生じる社会の問題等を、正の側面と負の側面の両面から検討できるように、参考資料を準備しておく。

### 〈ねらいの説明例〉

世の中には、これが正解だと決めることができない問題や合理的に説明ができない問題がたくさんあります。そこで、今日は、みなさんに「沈みゆくボート」という問題を考えてもらいたいと思います。いろいろ考え、悩み、対処法を考えてください。

グループ討議の間では、自分と同じ意見の人も異なる意見の人もいます。意見が同じである場合には、安心したり共感の気持ちがわいたりします。一方、意見が異なると、とまどったりちょっとした反発心を感じたりするかもしれません。意見が異なってもその意見を排除するのではなく、まず、冷静にしっかり聞いて検討してみてください。他の人の意見にも真摯に耳を傾け、積極的に意見交換をする中で、自分の考えを客観的に見ることができ、内容も深まっていくと思います。

### 〈まとめの例〉

皆さんが受けるテストには必ず正解がありますが、一般社会で起こるさまざまな問題は一つの正解にたどり着かないことがあります。そうした時には、今回のように、周囲の人たちと話し合ったり、関連した情報を集めたり、さまざまな見方を学んだりした上で、自分自身で判断を下すようにするとよいでしょう。答えを導きだす過程には、いくつかの選択場面があります。そこでは、これまで築き上げてきた価値観や信念が試され、揺らぐこともあるでしょう。また、新たな考え方や生き方に気付くこともあると思います。周囲の人たちとの意見交換は、多角的、理論的に考える習慣を育て、説明や説得の方法、表現を工夫する態度を養います。こうした体験を積み重ねて、視野を広げていくことが大切です。

### 【参考図書】

「現代文明論講義－ニヒリズムをめぐる京大生との対話」 佐伯啓思著 ちくま新書

## トリアージタッグ

近年、人の生死を遊び感覚で扱うゲームサイトが現れるなど、「命の大切さ」や「命の尊さ」を考えさせられることがしばしば起きている。

ここでは、災害医療の現場において行われるトリアージを題材として、困難な状況下での医療の難しさ、生命の尊さ、生きることの意味などを考えさせ、生徒の「命」に対する価値観に揺さぶりをかける。



脱線したJR宝塚線快速電車 2005年4月25日午前9時42分  
(朝日新聞本社撮影)

## 現場からの声

### 「JR 福知山線脱線事故でのトリアージ体験」

2005年4月25日、JR福知山線脱線事故が発生した。600名を超える死傷者を出した事故現場で、私は初めて災害看護活動を経験した。この事故では、現場で医療チームによって二次トリアージが行われた結果、「黒タグ」の傷病者は医療機関に搬送されず、病院の混乱を最小限にとどめたといわれている。

事故後、自分の行った当日の現場での活動について悩み考えていたときに、「災害看護は看護の原点である」という言葉に出会った。いまでも私は、この言葉を自分のものにできるよう、日々臨床の現場から災害看護について考え、取り組んでいる。

当日、医師3名と看護師の4名で、当院所有のドクターカーに乗り現場へ駆けつけた。当院のドクターカーは、西宮市消防の依頼でプレホスピタルに使用することもあったが、ほとんどその機会はなく、病院間の転院搬送に使用されていた。そのため、看護師の同乗システムはなく、当日私が出動することになった経緯も、救急の経験年数が長いというだけの理由からだった。そしてその活動内容も、現場での活動ではなく、傷病者を収容し病院へ戻るものだと考えていた。

現場へ到着したのは、10時を過ぎていた。事故現場東側で先着隊の兵庫県立災害医療センターの指示のもと、医師とともにペアとなり、ブルーシートに横たわっている傷病者にトリアージを行った。ほとんどが歩行できない傷病者で、口々に「何があったのかわからない」と言い、明らかに出血している部位も「あまり痛くない」と痛みを訴えなかった。医師が行う観察結果をトリアージタグに記載し、何があったかわからないと話す傷病者には、大きな列車事故にあった旨を話し、痛みを訴えない傷病者には、隠れた外傷がないか注意して観察を行った。

救急隊から、事故現場西側に医療チームが入っておらず混乱しているという情報があり、医師とともに向かった。踏切を渡り走っていくと、奥からどんどん担架代わりのシートに横たわった傷病者がボランティアの手によって運ばれ、トリアージもされずに普通乗用車に乗せられていた。医師と手分けしトリアージを行っていったが、あふれかえる傷病者に対応しきれない状況があった。意識はあるものの下肢を動かすことができない女性や、座ることはできているが頭部より出血している男性など、さまざまな外傷の傷病者がいた。病院への搬送はいつになるかわからなかったが、傷病者には「救急車で病院へ行きますからね」と声をかけ、トリアージを行った。昼を過ぎると、1両目2両目とも

に、救出される傷病者はほとんどが生命徴候のない「黒タグ」となっていた。なかには、胸ポケットの携帯電話が鳴り続けているスーツ姿の方や、損傷の激しい方もいた。明らかに亡くなっている傷病者に対してのトリアージだったので、「黒」か「赤」か悩むことはなかったが、ふだんならば病院に搬送され蘇生処置がなされるはずの傷病者に対して、トリアージをしながら複雑な気持ちになった。そんな「黒タグ」の傷病者に対して、乱れた衣服を整え、限られた物資を使用し、プライバシーが少しでも守られるように毛布でくるみ、手を合わせた。この事故は早い段階からテレビなどで報道されていたが、マスコミなどのカメラが傷病者を撮影し、直接「何が起きたのですか？」と質問し、取材まで行っていた。「黒タグ」を付けた傷病者までを撮影しており、医療活動を行いながらも憤りを感じた。警察は救助現場をブルーシートで目隠しのようにして立てかけたが、今度は事故現場に近いマンションの屋上やフォークリフトでの直下の現場を撮影しようとするカメラマンもいて、いたちごっこのようになっていた。

事故後2年近く経って、遺族の方と面会する機会があった。その際に、ご遺族がマスコミの撮影した写真を、亡くなったご家族が写っているという理由から大切に保管されている事実を知った。ご遺族にとっては、そのマスコミの写真が数少ない最期の情報だということがわかり、取材方法などに憤りを感じていたが、マスコミへの対応や考え方も難しいものであると感じた。

現場には、医療チームのほかに、レスキュー隊、救急隊、警察、ボランティアの方々など多職種が協働していた。当日は、看護師である自分はこの状況で何ができるのか、何をすべきなのかを悩みながら活動していた。看護師である自分にしかできないことは何か？あまりにも大きなテーマに、何もできなかった自分に落胆し、帰院した。しかし事故後、災害急性期の看護師の役割について学ぶうちに、事故当日に自分が行った行動は看護の一部であった、と考えることができるようになった。トリアージを行いながら、少しでも不安が軽減するように声かけを行い、現場での限られた物資で安楽をはかり、プライバシーを保護することは、日頃臨床で行っている看護と共通する。「災害看護は看護の原点である」～この言葉を大切にし、これからも積極的に災害看護にかかわっていきたいと考えている。

千島佳也子（兵庫医科大学病院救命救急センター）

「災害現場でのトリアージと応急処置」より

（NPO法人災害看護支援機構 理事長 山崎達枝 日本看護協会出版会）



## トリアージとは

大地震が来てまもなくすると、負傷した人々が、次々と治療を求めて病院、診療所、救護所に押し寄せてきます。しかし、これらの施設では停電で医療機器が使えなかったり、スタッフが不足したり、施設そのものが損壊していたりして、治療を求める人々に十分には対応できない状況が生じます。

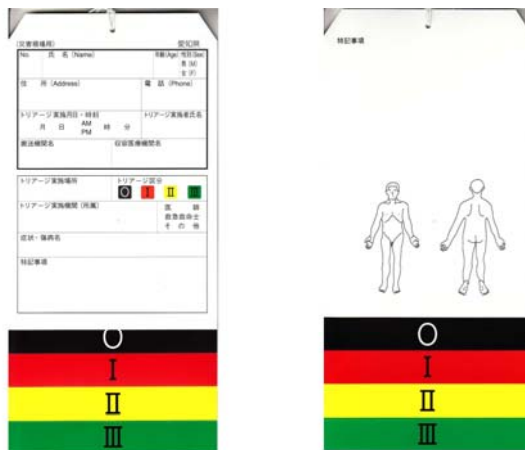
災害時には、多数の負傷者に対して提供できる医療が少ないという条件のもとで、一人でも多くの人を救命するために、受傷の程度を手早く判断し、程度に応じた治療の場所へ搬送・誘導する作業が不可欠となります。この作業を「トリアージ」といいます。

つまり、「トリアージ」とは、人材・資材の制約の著しい災害医療において、最善の救急効果をあげるために、多数の傷病者を重症度と緊急性によって分類し、治療の優先度を決定することです。ここで押さえておきたいのは、「トリアージ」とは、優先度決定であって、重症度や緊急度決定ではないということです。すなわち、人材・資材が豊富にある平時では、最大限の労力をもって救急処置される（結果、救命して社会復帰する）傷病者も、人材・資材が相対的に不足する状態では、全く処置されない（その結果、死に至る）場合があるということです。搬送や救命処置の優先順位を「Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳ」と決め、「Ⅳ」は搬送救命処置が行われなことがあることです。

### ※トリアージタグとは

トリアージでは、受傷の目印のため、「トリアージタグ」という札を体につける約束事になっています。トリアージの区分として4段階に分かれており、4つの色で分類されます。

この分類は、呼吸の状態、脈をとれるか、意識はどうか、などから判断します。なお、その現場の救命機材、人員の能力、搬送能力、搬送医療機関の能力、症状者の数などで、この分類は相対的に変化します。



優先度	分類	色別	区分
第1順位	緊急（最優先）	赤	Ⅰ
第2順位	準緊急（待機的）	黄	Ⅱ
第3順位	保留（軽症）	緑	Ⅲ
第4順位	死亡群、治療・搬送待機群	黒	Ⅳ

（参考：前掲「災害現場でのトリアージと応急処置」）

## ◇トリアージを考えるワークシート

### 〈ワーク1〉

「現場からの声」を読んで、困難な状況下でも、できる限りのことをしようと立ち向かう人々の思いを考えてみましょう。また、その場で困っている人に、あなたなら何ができるか考えてみましょう。

◇立ち向かう人々の思い

◇自分は何ができるか

### 〈ワーク2〉

トリアージの「負傷者の治療に優先順位をつける」という考え方について、あなたはどのように考えますか。

### 〈ワーク3〉

全体を振り返ってまとめてみましょう。また、「命の大切さ」や「生きる意味」について、考えたことをまとめてみましょう。

## 1 対象と実施する時期

全学年・2学期

## 2 展開例

	学習活動	指導上の留意点	参考
導入	1 本時の学習内容を知る。 2 災害現場で起こる状況をイメージする。	○3～4人のグループに分けておく。 ○災害時は、あらゆるものが平時のようには機能せず、思うようにならないことを想像させる。 また、傷病者も容易に治療してもらえないことを理解させる。	〈ねらいの説明〉
展開	1 トリアージを知る。 2 「現場からの声」を読む。 3 トリアージの背景にある「命」の捉え方について考える。 (グループで話し合う。)	○トリアージの意味とトリアージタグの使い方を理解させる。 ○困難な状況下の医療では、平時と全く異なるため、医療従事者が苦渋の選択を迫られることがあることを理解させる。 ○災害現場において、自分なら何ができるか、何をすべきかを考えさせる。 ○治療に優先順位をつけるということの難しさを考えさせる。 ○自分の受け止め方や価値観を、他の意見も尊重しながら考えさせる。	資料 読み物資料 ワーク1 ワーク2 意見交換
終結	「命の大切さ」について考えをまとめる。	○「命」の価値の大切さを深く感じとらせ、自分なりのまとめをさせる。	ワーク3 〈まとめ〉

## 3 留意事項

### (1) 「JR福知山線脱線事故」について

2005年4月25日午前9時18分頃、死者107名、負傷者562名、消防機関のべ293隊1,095名が活動、近隣の人々や多くの企業・団体がボランティアとして活動。

### (2) 「阪神・淡路大震災」や「東日本大震災」に関連する資料も調べさせる。

### 〈ねらいの説明例〉

今日は、災害医療の現場において行われる「トリアージ」を取り上げます。困難な状況下で救命作業にあたる人々の思いや苦しみを追体験し、「命の大切さ」、「命の尊厳」についての考え方を深め、自身の生きることの意味を考えてほしいと思います。

### 〈まとめの例〉

今日は、災害時や緊急時を想定し、そこで実践される「トリアージ」から生と死を考えてみました。「現場からの声」を読んで、今を生きている自分という存在のかけがえのなさを再認識した人、自分が生かされていることに喜びと感謝を感じた人、他の命や他者の存在を尊重し、自らも他者と共に生きている存在であるという実感をもった人など、さまざまだと思います。

また、自分も他者も大切な命をもつ存在であることは実感しても、全ての生命を生かすことに限界があることやその難しさも分かってくれたと思います。自分の価値観は正しいのか、判断は正しいのか。とりあえず正しいと判断したことはいつでもどこでも通用するものなのか。

私たちは、社会生活を営む上で、時として既存の道徳的価値観に疑問を抱き、対立する価値観との葛藤（モラルジレンマ）に思い悩まされることがあります。しかし、ここで大切なことは、「何らかの価値の大切さを深く感じとる」こと、「自分のもっている価値を再検討する」ことです。つまり、常に道徳的であろうとすることはどういうことかを自らに問いかけ、状況に応じた行動を選択していくことが大切だと思います。

### 【参考図書】

「災害現場でのトリアージと応急処置」 山崎達枝著 日本看護協会出版会